

研究・人的交流で地域貢献

長崎総科大とディーソル協定

字校法人長崎総合科学大学 株式会社ディーソル 株式会社ディーソルNSP

包括連携協定調印式



協定書に署名し、握手を交わす今村社長(左)と黒川学長(右)＝長崎市幸町、長崎スタジアムシティ

長崎総合科学大(長崎市、黒川不二雄学長)とIT関連会社ディーソル(東京、今村英雄社長)、グループ会社のディーソルNSP(長崎市、同)は27日、共同研究や人的交流を通じて地域社会の発展に貢献するため、包括連携協定を結んだ。ITや人工知能(AI)

技術を活用した次世代型農業の研究開発などに共同で取り組む考え。ディーソルは2005年、県の企業誘致で現地法人ディーソルNSPを設立。今村社長の出身地の五島市と佐世保市にも拠点を置き、16年から別のグループ会社が五島市でブドウや

パプリカなどの栽培にも取り組んでいる。

共同研究では、ITやAIを使い、ビニールハウスの温度や二酸化炭素(CO₂)の濃度の適正管理といった技術開発などを想定。学生のインターンシップなど人的交流も推進する。

ディーソルNSPが入居する長崎市の長崎スタジアムシティで調印式があり、黒川学長と今村社長が協定書に署名。黒川学長は「最先端のIT技術に触れる貴重な学びの機会になる。長崎でハイレベルなことができる」と学生に理解してもらいたい」と期待を寄せた。今村社長は「農業のIT化に力を入れているが、大学の力を借りて自動化など共同研究して世に出したい」と意気込みを語った。

(菘川裕之)